

# おりひめバス桐生市内遊覧

2017年5月13日(土)

上毛電気鉄道株式会社(友の会企画ハイキング)

群馬県地球温暖化防止センター

## 1. 今日のスケジュール

西桐生駅——桐生駅北口++++有鄰館前++++ふるさとセンター++++

10:07 徒歩 オリエンテーション 10:48 新緑探訪 11:45  
バス券購入 重伝建見学 11:50  
10:43 11:14

群馬大学桐生正門前++++桐生駅北口++++新桐生駅++++桐生温泉ゆらら++++

12:13 13:48 14:27 14:58  
各自昼食 14:02 14:33 15:00  
13:33

+桐生駅北口++++名久木++++桐生駅北口

15:25 16:12 17:00  
15:32 16:20 解散

昼食後乗車バス各停留所時刻

群馬大学桐生正門	13:33
本町一丁目	13:34
本町二丁目	13:35
有鄰館前	13:36
本町三丁目	13:37

## 2. 沿線の見どころ

(ア) 桐生駅北口～有鄰館前

\* 未広町商店街

両毛鉄道桐生駅建設に伴い、桐生新町5丁目から分岐して作られた道にできた商店街

\* 本町通り

1591年大久保長安によるまち建てに際して作られた直線の道路。北に天満宮、南に浄土宗浄運寺をおき、6つにまち割りされた元の桐生新町。建設当時は、4丁目までであり、十字路はなかったという。間口7間、奥行40間にまち割られて、近江商人や伊勢商人など全国から商人が住み着いたとされる。

\* 重伝建地区

昭和50年代に古い町並みを取り壊され、近代的な建物に作り直されたはずの桐生の商店街であったが、その際に昔のまま残された2丁目以北が、重伝建地区に認定されて脚光を浴びている。近江商人の店矢野商店の蔵を整備した有鄰館を中心に、明治時代からの町屋が残されている。最北に宿頭となった天満宮を置く。

(イ) 有鄰館前～ふるさとセンター

\* 桐生高等工業旧校舎

天満宮を過ぎると、旧桐生高等工業学校本館が残る群馬大学理工学部はすぐである。第八高等工業として大正4年に開校したもので、本館は、ハンマービーム構造による建築で、教会のようなたたかたであるが、純日本製である。現在耐震補強工事中で、再開館は、平成30年4月の予定である。4

月の第二週に開催されるしだれ桜を見る会は、市民に人気である。

**\* 東武バス天神町車庫跡**

現在の天神町二丁目バス停付近は、東武バスの北関東における拠点桐生天神町車庫跡である。県道の右側には整備工場、左側に広い駐車スペースがあり、待合所前からは、東京をはじめ各方面に多数のバスが発車していた。東京駅八重洲口行き急行バスは、「東京急行」といわれ、乗客は羨望のまなざしで見られたものである。

**\* 中世のまちだて**

桐生新町が形成される前には、この地域に街並みがあり、佐野氏一族が住んでいた。梅原館址が陣屋の跡と伝えられる。

**\* 桐生城址**

中世の古城、桐生城は、現在の城山の頂あった山城である。城山入り口バス停のところが登山口である。この付近の沿線には古い地名が残る。居館は、平時の領主の家があったところ。

**\* 梅田の里**

昔の桐生では、梅田と川内を中心に機織りをしていた。明治の初めに最初の工場製手工業により観光繻子を生産した成愛社という会社は、キリスト教の教えを信じた経営者により、観音橋付近に設立された。また、梅田の最奥にある根本山は、江戸を救った火伏の神として信奉され、そこへの巡礼路としてにぎわったところで、「根本山ひとり案内」という巡礼ガイドブックも発行されている。

**\* 桐生川ダム**

1982年に完成した、多目的重力式コンクリートダム。県営発電所があり470kwの発電を行っている。ダム建設前は、足利方面へ分岐する県道に落合橋がかかっており、付近に東武バス梅田線の落合終点があり、馬立まで行かない途中折り返し便が走っていた。橋のたもとには雪の屋といううどん屋があった。現在もダム堰堤入り口で営業しておりうどんがおいしい。

**\* ふるさとセンター**

梅田町の交流施設。そば、うどんなどが食べられる食堂やお土産、工作室などがあり、3月まで鉄道模型の運転会などやっていた。東武バス梅田線の馬立車庫跡に立地。

**(ウ) ふるさとセンター～群馬大学桐生正門前**

往路逆順

**(エ) 桐生駅北口～新桐生駅**

JR桐生駅と東武鉄道新桐生駅を結ぶ連絡路線。この両駅間には本町通りを直行する桐生女子高線と桐生市の主要施設を経由する路線がある。今回乗車するのは、市役所、桐生厚生病院、マーケットシティーなどを経由する後者の路線。途中の車窓からは、日本織物会社の織姫神社、発電所跡などを見ることができる。

**(オ) 新桐生駅～桐生温泉ゆらら**

**\* 東武鉄道新桐生駅**

桐生の南の玄関口。桐生市民が鉄道で東京方面に出向く際には、圧倒的に東武鉄道を利用しているので、ここから特急りょうもう号に乗車するが多い。一日2300人程度の乗降がある。1913年開業で、1988年まで開業当初からの駅舎が使われていた。2面3線のレイアウトを擁する。今後バリアフリー化工事の予定がある。

\*彦部屋敷

16世紀にたてられた武家屋敷で重要文化財に指定されている。

以下は、彦部屋敷説明板より抜粋。

『彦部家は第40代天武天皇の皇子“高市親王”(7世紀)を始祖とし以来1300年、また中祖信勝(33代)が1560年中世京文化を携えて来桐以来440年を数える“歴史の家”です。彦部家屋敷は1992年(平成4年)、主屋・長屋門・冬住み・文庫倉・穀倉の5棟と宅地20,600㎡が重要文化財彦部家住宅として指定を受けました。屋敷構えは、背後を戦時の砦となる手臼山、残る三方を壕や土塁で固め、中世武士館のたたずまいを残しています。南側は大手口(正面)に長屋門を構え、両脇を玉石で覆った土塁が築かれています。東側は高く積み上げた土居と、約4m下の水路がかつての壕の面影を残しています。東北隅には、櫓台、この西脇に搦手口(裏門)を設けています。ここから西へ深い空壕が直線上に続き、西北隅には竹が岡八幡宮・稻荷神社・弁財天等を屋敷神として奉っています。また、庭園は、手臼山の借景を自然に取り入れた竹林・果樹園、そして室町風回遊式庭園へと続いております。主屋は17世紀初頭の建築で、敷地のほぼ中央に建ち、南東に19世紀前半建築の冬住み(隠居屋)、後方には幕末の建築である文庫倉・穀倉が並んで配置されています。この他、織物業を営んでいた時の従業員寄宿舍(大正期)・医務所(昭和期)等々が時代の変換を伝えています。』

(カ) 桐生温泉ゆらら～桐生駅北口

\*桐生温泉ゆらら

国道50号から案内看板に導かれて少し入ったところにある、日帰り温泉施設。この魅力はこのエリアの温泉施設では珍しい砂塩風呂。オーストラリア産の砂にメキシコ産の原塩を加え、液体セラミック加工したもので、殺菌作用、消臭効果あり。また、発汗作用が高く、美容とリフレッシュに効果的だ。男女別の大浴場は浴槽が大きくゆったりとした造り。薬湯や電気風呂、ジャグジーなど、風呂の種類も豊富だ。加温した源泉を循環併用放流式で使用。男性用の檜樽風呂、女性用の信楽焼壺風呂のほか、東屋付きの露天風呂もある。平日650円。

\*松原橋

江戸時代、江戸から桐生へ向かう往還の玄関口、松原の渡しがあった場所にある。

\*錦町ロータリー跡

昭和16年から33年まで、ここにロータリー式交差点が存在した。今でも建物の向きにその頃の名残が見られる。

\*浄土宗浄運寺

桐生の宿頭が天満宮なら一番下が浄運寺。6丁のまち割りの一番南に位置する寺で、葵の紋を持つ寺。広沢町にあったが、1605年にまち建てにより現在地に移動。

(キ) 桐生駅北口～名久木

\*元宿浄水場

桐生市では1922年(大正11年)に上水道の敷設が計画されたが、関東大震災の影響によって延期された。1927年(昭和2年)に計画が再開され、1930年(昭和5年)9月に着工し、1932年(昭和7年)に竣工した。同年4月に通水を開始した。その後、数回にわたって上水道拡張事業が行われ、浄水場の増設工事が重ねられた。渡良瀬川より取水し、浄水場で濾過・処理した後、ポンプによって水道山中腹の配水池に送水され、配水池から自然流下によって市内に配水している。浄水場と配水池を結ぶ送水管は、宮前町で両毛線を跨いでおり、送水管に隣接する美原通り跨線橋は水道橋と呼ばれている。創設当初は渡良瀬川の伏流水を取水して

いたが、桐生市上水道第四次拡張事業によって、渡良瀬川の表流水を取水するようになった。

**\*小倉峠**

現在川の横のかけ下を通るが、かつては、山の上を越えていた。桐生から大間々へ向かう旅人は、この峠を越えて行き来した。夜は狼が出たという寂しい峠であったが、明治17年に新道が開削され、かけ下を通るようになり、川内への行き来が格段に便利になった。

桐生織物発祥の地と言われる村で、織物技術の伝承を伝える白滝姫伝説がある。

**\*川内**

桐生の織物発祥の地である川内町。ここには、京都から織物の技術を伝えたという白滝姫の伝説と白滝神社がある。

**【白滝姫伝説】**

今から1200年前の桓武天皇の時代、上野国山田郡(こうづけのくにやまだごおり)から一人の男が京都に宮仕えに出された。かなわぬ恋としりながら、宮中の白滝姫に恋した男は、天皇の前で見事な和歌の腕前を披露して、白滝姫を桐生に連れて帰ることを認めてもらう。桐生に移った白滝姫は、絹織物の技術を桐生の人々につたえ、その技術が今でも桐生の地で受け継がれているのだという。この白滝姫が桐生に来た時、桐生市川内の山々を見て「ああ、あれは京で見ていた山に似た山だ」と言ったことから、この地域を『仁田山』といい、特産品となった絹織物を『仁田山紬』というようになった。桐生織は、江戸時代前期までは「仁田山紬」と言われていた。姫が亡くなると、天から降ったという岩のそばにうめ、機織神として祀った。すると岩からカラコロンという機をおる音がきこえていたが、あるときゲタをはいて岩にのぼった者がおり、以降鳴らなくなった。この岩は白滝神社の前の神体石であるという。

たべたんマップ

日曜  
オープン店

**A** お得なセット、ランチ各種  
「カフェ クレール」

**B** 手打ちラーメン、  
セットメニューの  
「田中食堂」

**C** いろいろな麺と飯の  
「食い処 こなや」

**D** ソースかつ丼の「津かだ」

**E** ソーツかつ丼、  
ひもかわうどんの  
「ARIS ありす」

**F** 生そば・うどんの  
「川野屋支店 天神町店」

**G** 「ベーカリーカフェ レンガ」

**H** 手打ちそば、  
ソースかつ丼の「長男 正」

**I** カレーせいろひもかわの  
「藤屋本店」

**J** 土日オープン「若宮小町店」

**K** 「ビストロ ファンベック  
マサミ」

**L** 豆腐コロッケサンドの  
「喫茶 有鄰」

※「絹道ルート」と「原生が岡遊園地 徒歩」の乗り換えは、「西辻の高森」が「有鄰館」です。